

令和7年度学校自己評価システムシート（県立鴻巣女子高等学校）

目指す学校像	(1) 自立した女性の育成 社会人としての基本的な生活習慣やマナーを身に付け、生きる力を育み、自己や他者の理解を深め、行動できる女性を育てる。
	(2) 社会に貢献できる人材の育成 基礎的・基本的な学力の向上を図り、多様な科目を通し、専門的な知識・技術を身に付け、地域と連携した実践的な学びを推進することで社会に貢献できる人材を育てる。

重点目標	1 学習環境の整備と事前学習等の授業改善を通して、生徒一人一人の学力を向上させる。 2 きめ細やかな指導を通して、生徒の主体的な進路実現を支援する。 3 規律ある高校生活を通して、自己や他者の理解を深める指導を推進する。 4 地域との連携事業や情報発信を通して、社会に貢献する学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	10名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	4名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				令 和 7 年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	(現状) 学習環境づくりの指針「授業5原則」「CLEAN THE TABLE」「朝読書」の徹底で校内は大変落ち着いたおり、計画的な学習活動が展開されている。また、ICT 関係の整備や教員の研修により、ICT 機器を効果的に活用した授業が積極的に行われている。 (課題) 授業における ICT の効果的な活用が求められる。また、観点別評価への理解を深め、より適切に実施していく必要がある。	生徒一人一人に学科・教科ごとの具体的な目標を持たせ、学習意欲や学力を向上させられたか。	①授業ごとに年間学習計画を周知することで、明瞭な学習目標を生徒に持たせる。また、学期ごとに学習を振り返らせ、まとめさせる(学年・授業担当)。 ②学習の方法(予習・復習等)を生徒に具体的に指示することで、学力の底上げを図るとともに家庭学習時間の増加につなげる(授業担当)。 ③ICT 研修会を行い、授業での ICT 活用を支援する(複数回実施)。 ④各種研修会や授業公開週間等を活用し、観点別評価への理解を深め、教員間の学び合いの充実を図る(複数回実施)。	①学習に関する意識を高めた生徒の割合(前年度比較) ②家庭学習時間の状況(前年度比較) ③授業での ICT 活用状況・頻度 ④研修会等の実施状況と成果	現行の学習指導要領による教育課程が4年目となり、ICTの活用についても幅が広がった。 ①学力向上の実感(81%→78.2%)、課題提出の自己評価(95.7%→95%) ②家庭学習時間はやや底上げされた。(30分未満 52.4%→50.1%、1時間以上 19.2%→20.9%) ③AIの活用や著作権について学ぶICTに関する研修会を3回実施。 ④各種研修会や授業公開等を設定し、職員の関係性の向上生徒への対応力向上を図った。	A 学力向上を実感する生徒の割合は、前年度とほぼ横ばいで、家庭学習時間は改善されてきているが、十分とは言えない。 ICTの活用に関する研修会を充実させることで、より効果的な活用、授業改善を図ることができた。
2	(現状) 自立した社会人になれるよう、学年に応じた体系的な進路指導を行っており、卒業時の進路決定率も高い水準にある。 (課題) 進路に対する生徒の意識を高め、進路決定の充実を図る必要がある。学校としては、進学希望者の増加、学部学科の内容の多様化に対応した指導の充実、オンライン見学・出願等への対応等の研究が必要である。また、保護者に対する情報発信・進路意識の涵養も課題である。	生徒一人一人の進路実現に向けて、適切な進路指導計画、キャリア教育を一層拡充させられたか。	①基礎力診断テストの結果を活用して、各生徒の実態を把握する。(進路部・学年・授業担当) ②進路の手引きを定期的に活用して、進路行事・キャリア教育の振り返りを行わせることで生徒の進路意識を高める。(学年・クラス) ③進路希望調査、二者面談、三者面談の実施により生徒の実態を丁寧に把握し、個に応じた指導を行うことで進路未決定者を減少させる(進路部・担任)。 ④講演会や学年懇談会などで、保護者へ進路関係の情報を発信する(進路部)。 ⑤進学・就職希望者向けの特別講座を実施する(学年・進路部)。	①テスト等の結果分析と活用状況 ②③進路意識を高めた生徒の割合(前年度比較) ③進路未決定者の割合(前年度比較) ④保護者の進路行事参加状況及び情報発信状況 ⑤実施内容・回数など	3年生の進路決定は継続して順調である。 ①基礎力診断テスト等を基に、生徒の学習到達度を把握し、進路や次年度の選択科目を指導する上で活用した。 ②進路行事の振り返りを行い、進路意識の定着を図った。(進路行事に積極的に参加 82%→87.4%) ③進路未決定者割合(3.9%→2.9%) ④学年別懇談会等で進路決定に向けた心構えについて説明した。 ⑤進路に係る面接指導、論文指導、進学補習を行った。	B 今年度も就職の求人数が多く、生徒の希望する業種への決定率も順調であった。 就職試験や入試における ICT の導入が進んでおり、高校においても変化に応じた対応を引き続き進める必要がある。 保護者への意識を高めるために、研修会だけでなく情報発信を積極的に行う必要がある。
3	(現状) 「授業5原則」等の全学的な取組により生徒の基本的な生活習慣や自己管理能力は高い水準にある。学校行事に多くの生徒が主体的に参加しているが、より積極性を引き出したい。 (課題) 生徒の積極性を引き出すために、自己肯定感を高める指導が必要である。また、ネット社会のトラブル防止やマナー向上を図ることにより、他者を思いやる「気付く」力を養う取組を行う。	生徒の自己肯定感、コミュニケーション力と他者を思いやる「気付く」力を育成するとともに、各種の個別支援体制を改善できたか。	①生徒手帳の活用を計画的に指導し、生徒各自にスケジュール管理を徹底させるとともに、生徒の自己管理の状況を把握・指導する(クラス担任)。 ②各種のマナーの向上や良好な人間関係の構築、SNSトラブル等に関する講演会、学習会を実施する(生徒部、在り方生き方に係る教育推進委員会)。 ③生徒が落ち着いた環境で生活できるよう、日常的に荷物ダイエット等粘り強い指導を行う(学年)。 ④不安や悩みを持つ生徒への教育相談やカウンセリング機能を整えるとともに、教員研修会を実施する(体制の整備・強化)。	①②③学校生活アンケート調査結果による成果と前年度比較 ①自己管理意識を高めた生徒の割合(前年度比較) ②各種講演会等の事後アンケート項目の肯定的回答(8割以上) ④個別支援に関するアンケート項目の肯定的回答(前年度比較)	不安を抱えた生徒への支援体制も充実している。 ①学校行事等で生徒手帳を活用することが習慣化され、自己管理能力は高い。 ②挨拶運動等、マナーの意識は高い。(挨拶の自己評価 95.2%→97.5%) ④特別支援教育巡回支援拠点校や本校独自及び北部教育事務所のSCを活用する等生徒への支援体制は充実している。(悩みや不安を相談する相手場所がある 82.5%→85.2%)	B 人間関係づくりに課題を抱える生徒が増え、ソーシャルスキルトレーニング等の研修会や授業を実施することができた。 教員の生徒支援体制を学校全体で行えるよう、情報共有の機会を増やし委員会が中心となつて、関係機関と連携しながら取り組むことができた。
4	(現状) 地域企業や大学との交流事業が充実しつつある。鴻巣市等のボランティアへの参加も堅調である。 (課題) 生徒の社会貢献意識は高く、外部機関とWIN・WIN の関係づくりを学校全体で進めていくことが必要である。また、多くの中学生や保護者に本校を知ってもらうため情報発信に努める必要がある。	外部との連携を深め、生徒の活躍の場を広げられたか。外部に効果的に情報発信ができたか。	①外部との連携を深めるとともに、多くの生徒が地域交流や学校行事に参画できるように丁寧に指導・支援する(通年:生徒部、教科担当)。 ②各種の体験活動、外部連携事業等の充実を図る(担当)。 ③学校説明会や HP の充実を図ることで、中学生とその保護者に本校への理解を促進する(担当)。 ④Web ツールを活用した情報発信や HP の学校紹介リニューアルや積極的な更新、学校通信の発行により、情報発信を強化する(通年)。	①③地域交流等の実施状況と成果 ②体験活動、ボランティア参加等に関するアンケート調査結果による成果(前年比較) ③説明会へ参加した中学生の数 ④配信回数、記事数、発行回数など	校内外での活躍の場を広げた。また、学校の情報発信を充実させた。 ①企業との地域合同文化祭や鴻巣市と連携した子ども食堂の実施、探究活動発表会への参加等地域連携の充実。 ②大学との連携(ファッションショーでの協働活動、大学での保育体験、課題研究等)を充実させた。 ③④鴻巣高校との合同学校説明会の実施。学校通信3回発行。HPの新着情報121→180	A 企業や鴻巣市など、地域と連携した事業や取組の発表の機会を充実させることで、生徒の活躍の場を広げることができた。 学校説明会で部活動や生徒会役員の活躍の場を設け、生徒募集だけでなく、生徒自身の成長の場とすることができた。

学校関係者評価	実施日 令和8年 2月 3日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・教員と生徒の関係性が良く、生徒は授業に集中し、意欲的に取り組んでいる。 ・ICT を効果的に活用し、内容によってプリントの学習等も取り入れており、バランスがとれている。今後も、ICT と従来の手法による学びの特長を活かした授業展開を研究していく必要がある。 ・学年主任が生徒の状況を丁寧に把握しており、学年団を牽引している。 ・進路未決定者の割合が少なく、学年と連携した進路活動の取組が充実している様子が分かる。 ・大学進学率も増加傾向にあるため、生徒の実力を伸ばし、自己実現に向けて取り組むことのできる体制を一層整える必要がある。 ・ソーシャルスキルトレーニングや関係機関との連携体制が充実してきているため、生徒や保護者が安心して居心地よく学校生活を送れていると実感している。 ・生徒に寄り添った対応がなされているので、引き続き、豊かな人間性を育めるよう支援体制を充実させてほしい。 ・にっこにこ食堂(子ども食堂)の取組等、地域連携活動や探究活動が充実してきており、生徒の自己有用感に繋がっている。 ・HP では、更新回数を大幅に増加させたり、ネット上で学校見学が体験できる AR(拡張現実)を取り入れたりする等、情報発信が充実している。引き続き、学校 PR を充実させてほしい。